

団体名	がんばろう！つばさネットワーク
活動テーマ	被災地の元気に貢献する、被災地・大阪間の高校生交流事業



開会式は 500 名の参加で大盛況 20170325



北摂つばさ高、気仙沼高、登米高の部員 20170326



会場とホスト家族の間をエスコート



送迎の間にも大阪・宮城の会話が弾みます

がんばろう！つばさネットワークは東日本大震災を目の当たりにした高校生の「何かしなければ」という思いに応えるべく平成 23 年 4 月 22 日に設立した団体です。これまで 8 回の気仙沼現地ボランティアで高校生 339 名を派遣し、5 回の大阪招待で高校生 136 名を受け入れ交流してきました(平成 29 年 3 月 24 日現在)。

これまでの経過を踏まえて、年度末の 3 月 25-27 日に気仙沼高校、登米高校の 2 校 31 名の高校生、5 名の教員を受け入れ、交流しました(歓迎会は約 500 人参加)。

その目的は①被災地の「忘れられている」という不安を払拭し被災地の高校生の活性化で被災地の元気に貢献したい、②.南海トラフ地震に備え、高校生が中心になって学校・地域・市民団体の防災ネットワークを作りたい、ということです。方法としては、①高校生の送迎活動により、地域の方々による被災地からの高校生のホームステイを実現すること、②北摂つばさ高校の主催で野球試合を実施し北摂の 4 校と練習試合を実施すること、です。

その結果、①大阪と宮城の高校生の交流が盛り上がり、大阪の「私達は被災地のことを忘れていない」のメッセージを被災地にお届けすることができました。②高校生の活動を支えるネットワークが拡大し、茨木市内のユネスコスクール、地域自治会、市役所、スポーツ少年団、市民活動センター、茨木商工会議所、茨木商業団体連合会、茨木市内の全郵便局、企業・事業者の協力を得て、受け入れ態勢の持続可能性を高めることができました。

今回の大きな成果があがりましたのも、ひとえに公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団の助成を得たからこそと考えております。現在、平成 29 年度は 7 月に気仙沼での訪問と交流、3 月に大阪での受け入れ、と来年度の準備を進めています。今後とも活動へのご理解とご支援をいただければ幸いです。ありがとうございました。

(779 文字)

謹啓 陽春の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、過日の親善野球大阪招待では、本校生徒及び教員が大変お世話になりました。お忙しい中、皆様には本当に親切ご対応していただき、とても充実した時間を過ごすことができました。沢山の温かいお心遣いに心より感謝申し上げます。

今回で本校野球部がお世話になるのは4回目となり、たくさんの再会と新たな出会いがありました。大阪での滞在全般に渡りサポートしていただいた北摂つばさ高校の松浦英二校長先生を始めとした教職員の皆様、生徒の皆様、大阪と気仙沼の交流促進に尽力していただいている、がんばろう！つばさネットワークの皆様、親善試合で交流させていただきました各校野球部の皆様、市内少年野球団の皆様、部員のホームステイでお世話になりました地域の皆様、そして、歓迎セレモニーにご臨席いただきました福岡市長さんをはじめとした茨木市の皆様、応援演技を披露していただいた北摂つばさ高校ダンス部の皆様、その他関係の多くの皆様との交流は、私たちにとってかけがえのないものとなりました。こうした出会いと再会を通じて、いたらぬ私たちを支え、育ててくださる多くの皆様がいらっしゃることに感謝するとともに、交流の意義をそれぞれが考え未来志向で新しい何かを創り上げることができればと考えております。

震災から6年、地域の復興や生徒をとりまく教育環境にもまだまだ多くの課題が山積しておりますが、今回の交流でいただきましたご厚情を活かしつつ教育活動に尽力して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、お世話になりました皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、略儀ではありますが、親善野球大阪招待の御礼とさせていただきます。

謹白

平成29年3月29日

がんばろう！つばさネットワーク代表
松野 雅一 様

宮城県気仙沼高等学校 校長 小山 淳

硬式野球部 部長 伊東 貴博

監督 長根 彰範

大阪遠征の振り返り 宮城県気仙沼高等学校野球部

今年も自分達気仙沼高校と登米高校を大阪に招待していただきありがとうございました。今回で大阪の高校との交流試合も4度目を数え、この交流試合は私達にとってとても大切なものとなっています。試合では昨年を引き続き大阪の高校のレベルの高さ、元気の良さ、迫力に圧倒され、もっと精進しなければならないと実感できる良い機会となりました。この試合から自分は、もっと全員で敵に向かっていけるようなチームを作っていこうとキャプテンとして思いました。試合後は一緒に食事をしたり写真を撮ったり、会話をしたり選手のみなさんと去年よりも深く交流することができ、とても嬉しく思います。ホストファミリーの方は昨年と同じ方で再会することができて、とても嬉しかったです。自分の進路が決定した際にはまた大阪に行き、良い報告ができるよう頑張っていきたいと思っています。初日のセレモニーの時には様々な支援して下さった方々と会え、感謝の気持ちを表すことができたと思います。今回の交流を通して深く感じた事は、感謝を具現化していかないといけないと言うことです。夏の大会では、今回の経験を生かし甲子園出場の目標を叶え、テレビや甲子園球場で活躍している姿を見せたいと心から思いました。そのためにも自分達はとにかくがむしゃらに練習し、自分たちの弱さをなくして強みにしていこうと思っています。最後になりますが、今回は本当にありがとうございました。これからも気仙沼高校、登米高校と、つばさネットワークや茨木市との交流が長く深く続いて行くことを願っています。

2年 千葉大介

この度の関西遠征も、たくさんの方々の支援のおかげで充実した5日間を過ごすことが出来ました。東日本大震災から6年が経ち、気仙沼高校野球部の大阪遠征も4回目となった今回は、震災当時の事と宮城の復興状況、感謝の気持ちを伝えることを目的として訪れました。今年はボランティア活動としてつばさ高校の周りの清掃活動に取り組みました。震災当初に比べると復興も進んでいることもあり、この遠征が当たり前のように錯覚しがちになっていました。しかし、つばさネットワークに皆さんが駅前で募金活動をして下さったり、自分達を受け入れてくれるホストファミリーの方々、試合をしていただいた野球部の方々など、たくさんの方々の支えで遠征が実現している、そう皆で立ち返って考えると、野球での前向きで全力プレーを見せること以外にできることはないかと考え、清掃活動に取り組みました。試合では、3試合全敗で、いずれの試合も大差の試合となってしまいました。自分達の非力さを痛感しました。切れ目のない打線とホームを簡単には踏ませまいとするその姿勢や、何よりも声掛けの大切さ、元気な雰囲気的重要性を感じました。自分達は底辺にいます。すごく大きな伸びしろがあります。ここから自分達の現状を振り返って、春、夏へと繋げていきたいです。生徒との交流では、あまり震災関連の話はできませんでした。しかし、大阪の人のユーモアや関西弁と東北弁の違い、修学旅行の話などで大いに盛り上がり交流ができました。自分は恥ずかしがってあまり話しかけることができませんでした。それが心残りとしてあります。これからは、積極的に話しかける勇気と何か披露出来る芸を身につけたいと思います。私は2年生で今回が最後の遠征となりましたが、2年間を通して出来た交流の輪は永久に繋がるものだと思います。これからも大阪と気仙沼・登米、宮城の交流が続いていくことを願います。健康に気をつけて、ますますの発展を願います。本当にありがとうございました。今年の夏、甲子園で会いましょう。

2年 菅原佳司

この度は関西遠征に招待していただきありがとうございました。関西での2泊3日はとてもあつという間でした。自分ももっと長いものだと思っていました。自分は初めてのホームステイだったのでとても楽しみでした。最初は少し緊張もしたのですが、話しかけてくれたのでとても話しやすかったです。「今度大阪来たらまた泊めてあげるからね」と言ってくれたりしてとても優しさを感じました。そして、自分も気仙沼の現状や当時の話などをすることができてよかったと思います。この縁を大切にしたいと思います。野球の試合ではとても刺激になるものが多かったです。大阪のチームと野球ができるのは周りの支援や補助などがあってからだと思っています。とても感謝しています。この貴重な経験を糧にして強いチームとなって夏を迎

えたいと思います。お互い頑張りましょう！そして、送迎の皆さんありがとうございました。学校に行く時や帰宅の時にたくさんお話ができてよかったです！縁を大切にします。本当に感謝しています！最後に2泊3日と短い時間でしたがとても充実したものになりました。これからも気仙沼高校と交流が続いて欲しいと心から願っています。そして、野球部は甲子園出場ができるよう日々感謝の気持ちを持って野球をしたいと思います！つばさネットワーク関係者の皆さん本当にありがとうございました。

2年 平田陸

今年も大阪に招待いただき本当にありがとうございました。そして、震災から6年たっても、あたたかいご支援をありがとうございます。私は、今回で2回目の大阪遠征になりました。去年は、ただ大阪を訪れ、試合をして、帰ってくる。と感謝の気持ちを伝えることが出来なくて、後悔が残る遠征となりました。しかし、今回は2回目ということで支援していただいた方に感謝の気持ちを伝えようという気持ちでした。特に、去年に引き続き、ホームステイ先としてお世話になった奥田さんには、本当に感謝をしています。ご飯やお風呂など迷惑をかけてばかりでしたが、この恩は、自分が野球を通して、恩返し返していければと思っています。ありがとうございました。今年も親善試合として、春日丘高校、北摂つばさ高校、金光大阪高校と試合をさせていただきました。試合を通して、たくさんのことを学ばせていただき、今後の大きな刺激になりました。また、交流を通しての新たな出会いや去年からお世話になった送迎の2人との繋がりは、今後も大切にしていきたいと思います。去年は出来なかった感謝を伝えるということが、言葉だけではなく、形として残せたことが本当に良かったと思います。試合を見ていただいた方には、自分たちが元気で野球をしていることがわかったと思います。震災から、6年が経ちましたが、支援をしていただきありがとうございます。この大阪遠征を支えていただいた、全ての人に感謝の気持ちを忘れずにこれからも気仙沼高校は頑張っていきます。本当にありがとうございました。

2年 小野寺海

この度は自分達を大阪に招待していただきありがとうございました。自分は2回目の参加になるのですが、大阪での3日間は気仙沼では経験出来ないような貴重な3日間でした。試合では3試合とも大量失点で敗れてしまったのですが、大阪のチームの声の掛け合い方や、1つのアウトや1つの打席、1球1球に対する集中力などいまの自分達に足りないものをたくさん学ばせていただきました。大阪のチームから学んだことを今後の自分達の野球に活かしていきたいと思います。ホームステイでは、まず送迎の方々といろんな話をしながら楽しく移動ができ、とても良かったです。ありがとうございました。また、自分は今回初めてのホームステイで、少し緊張もあったのですが、送迎の方々やホームステイ宅の吉見さんのご家族のおかげでとても楽しく過ごすことが出来ました。吉見さんのご家族と震災の話になった時に吉見さんの方からテレビなどで放送される形としての復興は進んでいるのかもしれないが、思い出や心の面はそう簡単にはいかないというお話があり、とても考えるものがありました。気仙沼に行って自転車で見て回りたいと言ってくだったのでその時はぜひ案内したいです。この大阪遠征は本当にたくさんの方々の支えがあって成り立っているのだと改めて実感しました。自分がこの大阪遠征に参加するのは今回で最後になってしまうのですが、高校を卒業したあと、時間を作ってまた大阪を訪れ、お世話になった方々に会いに行きたいと思います。いつになるかはわかりませんがその時はまたよろしくお願いします。大阪と宮城、遠く離れた所ではありますが、これからもこの交流が続いていくことを願っています。大阪滞在の3日間に限らず、その他の準備なども含めて、自分達に関わっていただいた全ての方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

2年 梅森雄大

2回目の関西遠征に招待していただきました。去年は初めての大阪で色々な貴重な経験をしました。今年は去年と同様にいろんなことを学ぶとともに宮城県や気仙沼、大島などの震災当時の状況と震災が起こった時の対応や生活、現在の復興状況などを大阪の人達に伝えることや大阪の人達に感謝の気持ちを言動はもちろん、行動で表せていけたらいいと思いながら今回の関西遠征に臨みました。野球の試合では春日丘高校や

北摂つばさ高校、金光大阪高校と交流試合をしました。試合の結果は惨敗となってしまいましたがその中でもたくさんの事を学べたと思います。例えば、技術の高さや戦術の完成度も気仙沼では学べない事も見ることが出来ました。技術以外でも大阪のチームはチーム全体で声を出してとても元気よく楽しく野球をしていました。自分たちもチーム全体で元気よくというのは目標なのでお手本にして行きたいと思います。去年は集会所に泊まりましたが今年は森田さんのご自宅にホームステイをさせて頂きました。ホームステイ先ではとんかつや焼肉などのたくさんの美味しい料理を作ってもらったり、ホームステイの家族とともに震災の事や現在の気仙沼の状況や自分たちの生活や大阪の話もたくさん聞きました。ホームステイの家族の人はみんな明るくて内容の濃い話が出来ました。とても楽しく貴重な体験が出来ました。そして、北摂つばさ高校の皆さんには昼ごはんを一緒に食べたり、ホームステイまでの送迎もしてもらったりと色々な事で支援してもらいました。去年にあった人達とも再会でき、楽しく交流もできたと思います。会場準備やグラウンド整備も野球部の方々にやってもらい感謝でいっぱいです。今年は感謝を伝えるというテーマのもと、北摂つばさ高校周辺の清掃活動も行い、少しでも役に立てたならいいなと思いました。この5日を通して改めて大阪の人達の支援してくれるありがたみを感じました。それと同時に自分たちをたくさんの人が応援してくれている事も再確認することができました。そのためにも更に意識の高い練習を継続して夏の甲子園出場を目指して頑張っていきます。2回目の関西遠征もたくさんの事を学び、感謝し、人と人の繋がりの大切を感じました。つばさネットワークのみなさんや北摂つばさ高校の野球部の皆さん、ホームステイ先のみなさん、支援してくれた皆さんに感謝の気持ちを忘れず生活していきます。この度は本当にありがとうございました。

2年 千葉亜蘭

3日間という短い間ではありましたがありがとうございました！皆さんの支援のお陰で自分たちは今年も遠征に行く事ができ、本来であれば関わるはずのない皆さんと交流できたことに心から感謝しています。大阪の皆さんはとても暖かく自分たちを受け入れてくれて、普段は人見知りでありコミュニケーションをとるのが苦手な自分でも、楽しくたくさんの交流をすることができました。試合ではどの学校もレベルが高く、活気があり、自分たちの力不足を身に染みて感じました。北摂つばさ高校・登米高校・気仙沼高校の3つの高での全員でのノックや金光大阪高校のシートノックからはとても強い刺激を受け、甲子園へ行くために必要な、一種の基準のようなものを見ることができました。この遠征をより良いものにするために一番重要なことは、これからの自分たちの行動にかかっていると思います。もっとたくさん練習して、この感謝の気持ちをプレーで示し、春や夏の大会で皆さんのもとに良い知らせを届けられるよう努力をしていこうと思います。本当にありがとうございました！

1年 小野寺音生

この度は自分たちを大阪に招待していただきありがとうございました。藤井先生を始めとするつばさネットワークの皆さん、地域の方々には、自分たちが大阪で不便なく過ごせるように様々なおもてなしをしていただきました。また、大阪の高校生との交流や練習試合、その後の練習では、野球だけでなく、日常生活の面でも勉強できる場所が多々あり、個性豊かな大阪の高校生ともふれあえてとても楽しかったです。あの東日本大震災から6年経ち、自分は震災前と変わらないくらい幸せな生活を送れています。しかし、これは自分たち被災した人だけではなく日本各地からのたくさんのご支援があったからできることです。今回のようなご支援がある度に自分は、今の生活が当たり前ではないことに気づきます。自分は甲子園に出場してテレビを通して、被災した気仙沼の高校生は元気に暮らすことができていると伝えることがなによりのお礼だと考えています。今回の遠征を生かし、自分たちの目標、そして最大の恩返しでもある甲子園出場を果たしてみせます。今回繋がることのできたご縁を大切に、来年もこの繋がりがあればもっと成長した姿を見せられるよう精進していきます。ありがとうございました。

1年 小野寺颯純

この度は、我々気仙沼・登米高校を大阪にご招待頂き、本当にありがとうございました。この遠征で、我々

が無事に大阪遠征を終えることが出来たのは、春日丘・北摂つばさ・金光大阪高校の野球部の先生方や選手はもちろんのこと、ホームステイ先の方や、送迎して下さった北摂つばさ高校の先生方・生徒の皆さんをはじめ、たくさんの方々に支えられてこそだったと、改めて感じました。今回の遠征で経験したこと、感じたことを日々の学校生活や、野球に生かしていきたいと思います。今度は、甲子園出場校として、大阪に行くよう、これからの日々を大切に過ごしていきます。今回は本当にありがとうございました。

1年 熊谷元

今回は本当にありがとうございました。皆様の支援のおかげで大阪では様々な経験を積むことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。練習試合では強いチームと試合ができ、良い刺激を得ることが出来ました。もっともっと練習に励み、強いチームになっていきたいと思います！送迎の生徒さんやホームステイ先のみなさんにとっても優しくして頂き、充実した時間を過ごせました。今回の遠征を通して、沢山の皆さんの支援のおかげで遠征ができていて、野球に打ち込むことが出来ていることを改めて感じました。これからも交流を続けさせて頂けたら嬉しいです。本当にありがとうございました！

1年 佐藤優成

今回は、関西遠征ということで自分達を招待していただき有り難うございました。初めての関西遠征で不安で一杯でしたが、皆さんが明るく、優しく接してくれて楽しく、充実した時間を過ごすことができました。大阪のレベルの高い野球を自分の体で体感して、対戦した3つの高校は強くて、自分はまだまだだということを痛感しました。これから、もっと練習して頑張ります。とてもいい経験になりました。有り難うございました。野球だけではなく、ホームステイ宅までの送迎と、交流会や、ホームステイでは、大阪の人の温かさを実感でき、安心感があって交流して、話したときは皆さんはとても面白かったです。関西遠征を通して、色々な人と関わり、野球でも自分の足りないところや、対戦したチームの凄さを感じる事ができました。高校球児としても、人としてもこの、経験を通して成長することができたと思います。本当に有り難うございました。

1年 小野寺真澄

私は大阪遠征が今年初めてのことで不安と緊張がありました。しかし、つばさ高校に着いたらつばさ高校の生徒の方々が笑顔で迎えて下さり、心が落ち着きました。1日目はスポーツ少年団との交流やつばさ高校ダンス部の披露などセレモニーを催して下さいました。そして、午後には早速試合があり、相手高校は春日丘高校でした。試合には負けてしまったものとても良い経験になりました。2日目はつばさ高校との試合がありました。この試合にも負けてしまいましたが、自分達の課題がよく分かった試合になりました。3日目は金光大阪との試合でした。金光大阪は人数がとても多くて圧倒されてしまいました。さらに、シートノックもかなりすごくてビビってしまいました。しかし、そこから学べるが多々あり、参考にしていきたいと思いました。1日目、2日目の昼食はつばさ高校、春日丘高校、登米高校、気仙沼高校で食べました。これはもっともっと交流を深めるといことが意識されていると思います。初めては緊張して言葉も発するに発せれなかったけれど、明るく優しく振舞って下さって、こちらが気持ちも柔らかくなりました。ホームステイ先への送迎の方々には本当にご迷惑をおかけしてしまいました。気仙沼高校の部員が遅れをとってしまった時にも、文句1つも言わずに待って下さっていたのを覚えています。朝は時間通りに迎えに来て下さり感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。ホームステイ先では、私達の班員は4人で他の班よりも人数が多かったにもかかわらず快く引き受けてくれて、さらに、まるで自分達の家のように過ごさせて下さいました。沢山ご迷惑をかけてしまいましたが、2日間誠にありがとうございました。野球の技術はもちろんですが、その他にも、人々とのコミュニケーションをとることや、私達は1人で生きているのではなく、色々な人によって支えられているのだと改めて実感しました。私達の夢は甲子園出場です。今回の経験を糧に夢に向かって一生懸命頑張りたいと思います。3日間本当にありがとうございました！

1年 吉田昂平

今回はこのような機会を与えていただいたことにとっても感謝しています。一年生の自分には大阪遠征は初めてだったのでいろいろな不安がありましたが、たくさんの支援のおかげで野球に集中することができました。野球の試合を通して自分は改めて野球の楽しさを感じることができ、今後の野球人生を変える大きなきっかけになりました。また、北摂つばさ高校の生徒の皆様をはじめ、大阪の高校生と交流ができて初めて知ったこともあったし、自分達とは違ったところもあって日常にはない刺激を感じることができました。ホストファミリーの皆さんには自分を温かく迎えていただき、おいしい食事や楽しい会話ができて試合の疲れを忘れることができ、遠征中健康に過ごせることができたのも自分のことを気遣ってくれたホストファミリーの皆さんのおかげだと感謝しています。今回の遠征で自分が一番感じたことは野球を通しての縁です。親善試合をできたことも交流を楽しめたことも縁があつてのことだと思つたし、新しい縁も遠征中にできたと思います。この経験を野球にも生活にも活かしたいと思います。本当にありがとうございました。

1年 千葉匠真

今年も大阪に招待していただきありがとうございました。震災から6年経った今でもこうして支援してくださり、大阪の方と交流出来る機会を設けてもらっていることにすごく感謝しています。私は今回で2回目の大阪遠征なのですが、初めて行った時と同じようにホームステイの方は温かく歓迎してくださり、大阪のいろいろな場所に連れて行ってくださったり、子供達と仲良く遊んだりできました。また、気仙沼高校の話、気仙沼と大阪についての話などで盛り上がることができ、とても楽しかったです。つばさネットワークの皆さんはホームステイ先、学校への送迎で朝早く迎えに来てくれて、大阪の高校生の話を聞いて面白かったです。大阪で学んだことは、臨機応変に対応出来る力、自分から進んで人の輪に入ってコミュニケーションをとる力です。大阪の皆さんは何でも積極的に物事に取り組んでいるのでそういうところをわたしも見習うべきところなのかなと思つました。震災があつて大阪の方々の支援で成り立っているこの繋がりに感謝をしつつ、私もいつまでも受け身でいるのではなく自ら何かを発信していく存在になれるようこれからも一生懸命頑張りたいと思います。本当に今年も素敵な出会いをありがとうございました。この繋がりをずっと大切にしたいと思います。

2年 マネージャー阿部千純

登米高校野球部



佐々木友太 (3年)

昨年に引き続き、私たち登米高校野球部をこのような遠征にご招待いただきありがとうございました。昨年同様に、この3日間の遠征はとても充実していて、私の野球人生の中で一番の思い出に、そして一番の勉強になったと思います。私はこの遠征を通して、がんばろう! つばさネットワークの皆さん、ホームステイ先まで送迎して下さった北摂つばさ高校の生徒さん、この日の為に試合をしていただいた、北摂つばさ高校野球部の皆さん、茨木高校野球部の皆さん、金光大阪高校野球部の皆さん、試合をしてませんが非常に刺激を受けた試合をしていた春日丘高校野球部の皆さん、ホームステイ先でお世話になった方々、色々な面で協力をしていただいた関係者の皆さんには本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。昨年はまた初めての事だらけで、何をしたら良いのか、何をしたら喜んでいただけるのか等と分からないことだらけでしたが、今年は自分たちなりに工夫をし3日間を充実した日にできるように行ってきました。私はこの遠征を通じて、毎年思うことがあります。それは、私たちがこうして楽しく充実した時間を過ごせるのは、何ヵ月も前から準備してくださっている北摂つばさ高校の先生方、生徒の皆さんのおかげだと思っています。皆さんの支えがなくてはこの遠征を成功することができなかったと思っています。ホームステイ先でお世話になった皆さん、お忙しいところ歓迎していただきありがとうございました。試合で疲れた体を取ってもらおうと美味しい料理を提供していただいたり、気分転換に有名スポットにも連れて行ってもらったりと、何一つ不便なく過ごすことができました。本当にありがとうございました。ホームステイ先まで送迎して下さった生徒の皆さん、本当にありがとうございました。予定時間を越していても笑顔で待っていてくださり、面白い話をして笑顔にさせてくれたりと、皆さんがいてくれたおかげでとても有意義な時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。この遠征のために私のために試合をしてくれた、北摂つばさ高校を初めとする3校の高校の野球部の皆さん、皆さんのプレーは常に私たちに刺激を与え、感動を与えてくれたおかげで野球の技術はもちろんの事、人のために何か成し遂げるといふ物を学んだ気がしました。この交流が永遠に続いてくれることを心から祈っています。最後にこの遠征を企画してくださった北摂つばさ高校の先生方を始め、色々な面で携わっていただいた皆さん、私達はこの遠征を絶対に忘れずそしてこの遠征を通して培った物をこの宮城の地で発揮するところ、そして何より最大の恩返しというのは、いまだ成し遂げていない甲子園に出場することが今できる一番の恩返しだと思っています。ここで学んだ事を忘れず、お互い切磋琢磨して頑張っていきましょう。そしてもし時間がありましたらぜひとも登米市に遊びに来てください。この3日間本当にありがとうございました。



佐藤礼恩 (3年)

この関西遠征を通じ、北摂つばさ高校、茨木高校、春日丘高校、金光大阪高校の皆さんそしてホームステイ先のご家族には本当にお世話になりました。特に北摂つばさ高校の方々には何から何までお世話になりました。昨年に引き続きのこの遠征となりましたが、昨年とはまた別のものを感じました。ホームステイをする事により、本当に皆さんに支えられているんだなぁと実感しました。しかし、自分の子供のように接してくれて本当に感謝しかありません。本当にありがとうございました。北摂つばさ高校の皆さんには移動の費用から何から何までの支援をしてもらいました。朝の送迎から帰りの送迎に付き添って下さった方々には本当に感謝しています。ただの交流では無く絆を深められた交流になったのかなと思っています。自分たちにも良い刺激になったと思っているし、北摂つばさ高校の皆さんにも良い刺激が与えられていたら良いかなと思っています。今回で終わりになるのでは無くしっかりと次世代に残していき、今後の北摂つばさ高校と登米高校・気仙沼高校、その他の高校の皆さんの交流の場、そして絆を深め合う場として繋いでいけたらなと思っています。試合を通じて、宮城のチームには無い戦い方や、声の出し方から行動の素早さからは本当に学ぶ事しかありませんでした。自分たちはまだまだ成長できるんだという気持ちを頂きました。震災から野球をいつも通りに出来ることは幸せな事なんだという気持ちを忘れずにこれからも野球を続け、感謝という気持ちを忘れずにプレーしていきたいと思っています。今回の経験を生かして春の大会、夏の大会を戦い抜き勝ち進み最高の結果として、甲子園に出場する事が出来ればと思っています。本当に皆さんありがとうございました。先生方もこのような遠征に連れて行ってくださり本当に感謝しています。しっかりと恩返しできるようこれからも精進していきます。



今野健太郎 (3年)

今回、関西遠征に招待してもらったつばさネットワークのみなさんには、とても感謝しています。さらに二年連続で招待してもらったことにもとても感謝しています。関西の方々は自分たちの生活がより良いものになるようにと考え、行動してくださり、嫌な顔一つせず私たちの支えや手伝いをしていただきました。逆の立場だったら、手伝いや支えをできるかと聞かれたら正直自信を持ってできるとは答えられません。しかし、関西の方々は当たり前のようにお世話していただきました。こんなにお世話してもらおうと自分たちがなんだか申し訳ない気持ちになった時もありました。しかし、私たちも関西の方々に本気で東日本大震災について考えらうことができましたし、私たちも伝えることができました。震災復興という意味でも亡くなった人々もこれからも大阪と宮城の交流を続けて欲しいと願っていると思います。その意味でも交流を止めることなくこれからも長く付き合っていけたら幸いです。次にホストファミリーの方々へです。私は今年インフルエンザになってしまいましたが、対応していただき、私の体調も遠征中にかなり回復することができました。心遣いをしてもらい、さらに新幹線で帰るために新大阪駅まで乗せていただきました。洗さんには大阪の街についても語っていただき大阪の街も勉強することができました。本当にお世話になったので結果で恩返ししたいと思います。次に戦っていただいた対戦校3校さんです。茨木高校、北摂つばさ高校、金光大阪高校の3校さんは自分たちにとって大阪の野球を見せていただき宮城にはないものを収穫できたと思います。夏の大会勝ち進んで甲子園で戦いたいです。春日丘高校も交流していただき感謝しています。最後に藤井先生をはじめとするつばさネットワークさんに感謝の気持ちを持ち、これからも交流を続けていけるようにして、結果で恩返ししたいと思います。



伊藤亮 (2年)

この度は私たちをこのような遠征に招待して頂き本当にありがとうございました。自分は大阪弁を聞いたり関西に行くのは初めてだったのですが、本当に関西の方々には面白くてとても優しくてすごくいいと感じる遠征でした。特に北摂つばさ高校の野球部の方々やユネスコ部のみなさんには送迎から食事まで、何から何まで面倒を見ていただきとても充実した3日間をすごすことができました。人生のなかでこういった遠征にいけるということはとても貴重な経験なので大人になってもこの経験を忘れることなくいろいろな人たちにこういう経験をしたんだということを伝えられたらいいと思います。北摂つばさ高校と一緒にやって頂いた試合が終わったあとでのシートノックでは吉田監督に声をだしていけと教えていただき、とても楽しく声をだして練習することの意味を改めて知ることができました。その後の北摂つばさ高校さんの野球部さんとの交流では宮城と関西での使う言葉が違いすぎてすごい面白くてまた、関西でのギャグも知ることができてとてもいい交流ができたと思います。本当にありがとうございました。また、この遠征に携わっていただいた春日丘高校や茨木高校、金光大阪高校の人達にも感謝の気持ちでいっぱいです。金光大阪さんと茨木高校さんは試合をしていただき本当に勉強になりました。茨木高校との試合では、打線の強さをすごく感じ自分たちが点数をとってもまた、追いつかれたりとても白熱した試合をすることができました。本当にありがとうございました。また、ホストファミリーのみなさんにも本当にお世話になりました。とくに洗さんには2日間泊めていただき1日目はご飯まで用意して頂きました、人生の目標を10個たてるとそれが叶っていくという話はとても勉強になりました。自分の出身地をいったりなどとても面白い時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。この関西遠征ではたくさんの方々の支援があってこそ実現したことだということを忘れずにまた、自分たちも宮城県沿岸部の復興に取り組み震災の記憶を忘れずに伝えていきたいと思っています。それを春の大会、夏の大会に繋げて春の大会では県大会出場、夏の大会では甲子園であえるようにお互いに頑張っていきましょう。今野球ができることは当たり前じゃないという気持ちを忘れずにこれからも頑張っていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



高橋玲遠 (2年)

自分は、今回の関西遠征でたくさんの人にお世話になりましたし、たくさんの人と仲良くなりましたし、人との縁の大切さを学ぶことができました。まず、北摂つばさ高校の藤井先生にお世話になりました。この遠征は、藤井先生のおかげで、成り立っていることを知ったときは、とても衝撃的で、ビックリしました。藤井先生が全部手配していなかったら、この遠征はなかったと思いました。本当に、藤井先生には、優しく、面白い人でした。本当に自分達のために、色々手配して頂き本当にありがとうございました。北摂つばさ高校の選手達にもお世話になりました。北摂つばさ高校の選手は、みんな面白くて、優しく、礼儀正しくて、みんな仲良くて、いいチームだと思いました。凄く関西弁もいいなあと思いました。北摂つばさ高校のピッチャー陣の人達と一緒にシートノックが出来たかったことや、キャッチボールが出来たことは、凄くいい経験にもなりました。本当に、お世話になりました。本当に、ありがとうございました。北摂つばさ高校のUNESCO部の人達、ボランティアの人たちにもお世話になりました。集会所までの道を分かりやすく、教えていただいたり、雨が降っているときに、傘を貸していただいたり、本当に自分達のために何から何までサポートして頂きありがとうございました。関西弁を女子が喋っているのを聞くと、可愛いなあと思いました。本当にありがとうございました。お世話になりました。洗さんにも、本当にありがとうございました。聞き心地のいい関西弁で、とても優しく、目標を持って、そのためにやるべきことを細分化することは、いきるためにとても大切だと思いましたし、これからの自分の人生になると思いました。本当にありがとうございました。

いました。本当にお世話になりました。洗さんと話すことが楽しかったです。まいやん好きなのは、ちょっとビックリしました。乃木坂の話も出来てよかったです。またお会いしましょう。最後に、自分は、この遠征にお世話になった方に恩返しをしたいと思いました。この恩は、やっぱり野球で、結果を残して、春は、絶対県大会出場、夏は、甲子園出場して、甲子園に見に来てもらえるように、日々練習していきたいです。



熊谷 柁真 (2年)

今年もこうして自分たち登米高校を大阪に招待して頂きありがとうございました。今回の関西遠征は自分にとってとてもいい経験と大きな財産になりました。また、たくさんの方々に出会えて楽しく、充分した5日間でした。なによりみなさんとこうして出会えたのもなにかの「縁」だと思っています。自分たちの為に昨年の交流会が終わってからすぐまた今年の計画を建てて頂き、そして、準備などをすすめて頂き感謝の二文字では伝えきれないほどの想いでいっぱいです。自分たちがバス移動14時間をかけて大阪の茨木市にある北摂つばさ高校さんを訪れた時、北摂つばさ高校さんの生徒のみなさんは笑顔と拍手で出迎えて頂きバス移動の疲れが一気にとれました。その笑顔と拍手には、とても温かみを感じました。茨木市の市長さんを始め、藤井先生やたくさんの方、そして、北摂つばさ高校さんのユネスコ部のみなさん、生徒のみなさん、北摂つばさ高校、茨木高校、春日丘高校の硬式野球部のみなさん、地元の少年野球団のみなさん、親の会のみなさん、そして、自分たちの宿泊を引き受けて下さった地域の方々、自治会のみなさんが揃って歓迎セレモニーに出席して下さい改めて支えられているんだなと感じました。みなさんが口を揃えて「待ちました!」と話していたのがとても印象深いです。交流試合では第一試合という事でたくさんの方々が観客席やネット裏で見たいので全力プレーで宮城も頑張っているんだ!というところを伝えました。宿泊先では洗さんの協力のもと自治会の公民館で疲れを癒せました。食事の際に自分たちが住んでいる地域のPRや、目標を明確に持つこと、夢は1つじゃなくてもよいということなどすごく真剣に話して頂いたのでもって勉強になりました。2日目は、主催校の北摂つばさ高校さん交流試合をしました。選手のみなさんのひたむきで元気ハツラツとしたプレーはとても勉強になりました。食事と共にして、友達もでき来年また試合しよう!と約束したので来年は今年以上に成長した姿をみなさんに見せられるように精進したいです。3日目は北摂つばさ高校さんとの交流は最終日という事で、写真撮影や記念品の交換をしました。一生大切にします。北摂つばさ高校さんと茨木市のみなさんに笑顔でお見送りをして頂き改めて来てよかったと心から思いました。そして、最終戦は全国でも名の知れた金光大阪さんと試合をしました。野球をやる姿勢にはとても圧倒されました。選手のみなさんはしっかりと自分の意思と信念を持って行動しているところはいますぐにでも自分たちも実行できる事だと思いました。金光大阪さんの試合にも北摂つばさ高校さんのユネスコ部の方々や野球部の方々、先生方も足を運んで応援して下さい、最後の最後までとてもお世話になりました。最後にこの関西遠征を通して、自分たちはたくさんの方々を支えられているんだなと思いました。野球の技術だけではなく、人間性も磨くことができました。たくさん学びとたくさんの課題を宮城に持って帰ることができ本当に感謝しています。震災から6年。沿岸部では完全にではありませんが、着々と復興が進んでいます。自分たちのプレーで被災地を日本を元気にするのが自分たち高校球児の使命なのかなと思います。来年また会う頃にはお互い成長した姿で会うことを期待しています。5日間本当にありがとうございました。これから来年も再来年もその先もずっとこの交流が出来ることを心から願っています。



小野寺 健太郎 (2年)

今年も大阪遠征に私達登米高校も招待していただきありがとうございました。今回の大阪遠征のために北摂つばさ高校さんが年に何回も募金活動をして私達の遠征費を集めていただいたと聞き、本当にありがとうございました。この遠征で私は、色々な人の支えがあってこうして野球をしているんだと実感することができました。北摂つばさ高校さんからは、素晴らしいセレモニーで歓迎をしていただきました。ダンス部さんによる素晴らしいダンスや私達を支援してくださった方々が快く迎え入れてくださり本当にありがとうございました。試合ではさまざまなことをサポートしてくださり本当に充実した遠征になりました。ユネスコ部の方には場所案内や見送りなどさまざまなことをしていただき本当にありがとうございました。交流会では、面白いことなどをして仲を深めることができました。試合では自分たちの実力や自分たちに、足りないものなど色々学ばせていただきました。北摂つばさ高校さんのおかげでとても充実して勉強になる遠征になりました。自治会の洗さん、3日間ありがとうございました。夜勤明けでも私達のために寝ずに色々準備していただきありがとうございました。お話を聞きとても勉強になりました。お話にあった10個の目標を3分以内に言葉にしてそれを更に1つずつ明確にしていくことでその目標が達成できるということがとても勉強になりました。この話を私は、実行して1つずつ達成していきたいと思います。金光大阪高校さん試合をしていただきありがとうございました。金光大阪高校さんからは試合を通して色々学ぶことができました。声の大きさ、返事の仕方、自分の意思をしっかりと伝える、一個一個の行動の速さ、挨拶の仕方他にもさまざまなことを学ぶことができました。この学んだことをみんなで徹底してやっていきたいと思います。この4日間、北摂つばさ高校さんを中心に支援してくださった方々本当にありがとうございました。この4日間で色々学ぶことができましたこの学んだことを忘れず春夏といい結果を残して、大阪の方に報告できるよう頑張りたいと思います。



佐々木拓海 (2年)

今回の遠征に招待していただきありがとうございました。自分達がこの遠征に来れるのは北摂つばさ高校さんが募金活動などで自分立ちのために準備してくれたからです。試合を通して学んだことは、3日間どのチーム人数が多くてメンバーをかけて一球一球大事に必死にやっている中、自分たちは人数が少ないからエラーしても、打てなくても大丈夫など、どこかで安心している部分がありました。この意識の違いがプレーにも大きく影響しているように感じました。これから自分たちも一つ一つ大切に一球一球の重みを感じながら毎日の練習をして行きたいと思っています。自分達は六年前震災で無くしたものも沢山ありましたが、同時に得るものも沢山ありました。関西の皆さんのように自分達のことを考えてくれる人たちがいるからです。自分達はボランティアや支援してもらったりとお世話になってばかりで、まだ何も返していませんがこれから少しでも関西に貢献して少しでも関西の方々の力になれるように努力して行こうと思っています。本当にありがとうございました。



遠藤駿汰 (2年)

私は今回の関西遠征で心身とも大きく成長することができました。初めての関西遠征で楽しみもあれば不安も多くありましたが北摂つばさ高校さんのみなさんとお話をしていくうちに不安は消えていました。一緒にシートノックをうけて北摂つばさ高校さんは捕球も送球もすばらしくエラーした人、いいプレーをした人への声の出し方や盛り上げ方一つ一つが自分達には足りないものを多く持っていて自分も野球だけでなくまだまだやる事がいっぱいあると改めて実感することができました。食事でのお話ではそれぞれの地方のことや野球、おもしろい話も色んなお話をいっぱいできてよかったです。がんばろうつばさネットワークさんやホストファミリーのみなさん、北摂つばさ高校のみなさんのご支援をいただいてとても充実した関西遠征になりました。本当にありがとうございました。



菅原宗大 (2年)

今回の関西遠征について、自分が思う事は、北摂つばさ高校さんをはじめ色々な高校さんにしっかり感謝しなければいけないなと思いました。遠征に行く前の気持ちは、関西の野球はどのようなものだろうと、野球のことばかり考えていました。しかし、現地に着くと想像してたよりも、多くの野球部ではない生徒さんが協力してくれていました。そこで、自分たちがどれだけ協力していただいているのか分かりました。考えが変わると、プレーに対する気持ちも変わりました。関西の方々を楽しみにしているのは、自分たちの元気だと思ったのでとにかく声を出し、全力疾走を心がけました。試合だけではなく、昼食の時間や練習終わった後、話しかけていただいととても嬉しかったです。合同ノックをした事は、一生の思い出です。宮城に帰り、北摂つばさ高校さんと一緒に戦っているつもりで、試合をしていき、必ず県大会出場、必ず夏の大会でいい結果を出したいと思います。ありがとうございました。



高崎凱 (2年)

私達のために、たくさんの準備をしていただき、本当にありがとうございました。北摂つばさ高校の選手のみなさんは、とても礼儀正しく、また何事も積極的に行動していて、野球だけではなく、野球以外のこともたくさん学ばせてもらいました。1日目の親善試合では、北摂つばさ高校さんは試合がないのにも関わらず、グラウンド整備をすべてしてもらい、また試合の後には、3チーム合同のシートノックをさせてもらい、とても良い思い出になりました。そのシートノックの中で、「声を出せ」と言われたのですが、その後「自分の恥ずかしさを出してたら、いつまでも成長しない」と言われた時は、とてもその通りだと思いました。今まで自分がいかに弱気だったかがとてもよくわかりました。なので、シートノックでは、誰よりも大きい声を出しました。そのシートノックは、今までのシートノックの中で一番思い出に残るメニューになりました。2日目は、北摂つばさ高校さんとの親善試合で、私は試合には出れませんが、見ていてもとても参考になることがたくさんありました。キャッチボールの正確性やシートノックを効率よくする方法など、試合前にも関わらず、たくさん学ばせてもらいました。試合中には、点を入れた時の盛り上がり方が登米高校よりすごく盛り上がっていたので、私達の盛り上がりは全然盛り上がっていないということにも改めて気づくことができました。プレーでも、ピッチャーの面でインコースやアウトコースの投げ分けがとてもうまかったですし、変化球もすべてストレートと同じ振りで、目標とすべきピッチングでした。今回の関西遠征で学んだことは、まだまだたくさんあります。また来年も招待していただけるよう、今年も良い結果を北摂つばさ高校さんに伝えられるように頑張ります。本当にありがとうございました。



佐々木魁 (2年)

ひ宮城にも来てください。待ってます。

今年も、登米高校、気仙沼高校を呼んでいただき感謝しています。この5日間の遠征を通して、たくさんの方々にお世話になりました。特にお世話になった方々は、北摂つばさ高校の生徒の皆さんです。試合の準備など、お昼など、全て含め自分達が楽しい遠征になるようにしていただき感謝の気持ちでいっぱいです。北摂つばささんのアウトコールは、すごく声が大きく勉強になりました。登米高校でも元気の良い練習を忘れずにしたいと思います。この遠征を通して、自分達の足りない部分そして個人の課題を見つけることができました。他のチームから、たくさん勉強することが多く、自分達の甘さに気付かされました。本気でお互い甲子園を目指しましょう。そしてインフルエンザには気を付けてください。最高の思い出をありがとうございました。来年もぜひ呼んでもらえると嬉しいです。登米高校野球部一同応援しています。ぜひ宮城にも来てください。待ってます。



佐藤研斗 (2年)

今年、少しでも成長した姿を見せられるよう頑張っていきたいです。ほんとにありがとうございました。

今回、関西遠征は北摂つばさ高校さんが年に何度も募金活動を行ってくれたおかげで遠征に行くことができました。気仙沼と登米の2つの高校が充実した3日間を送ることができたのもつばさ高校の生徒さんたちも含め、協力してもらったからです。ありがとうございました。今後、関西の方でこのようなことがあっても、自分は積極的に協力したいとおもいました。そして、つばさ高校の優しさを直で感じることができました。こっこの沿岸部も思いに答えられるよういち早く復興していきたいです。また、試合を通して色々学んだことがありました。まず声の出し方です。大阪のつばさ、茨木、春日丘、金光のチームはベンチのチーム一丸となって励ます声をかけてました。自分達もそれを見習っていきたいと思いました。そして、これから先、今回支えていただいたことを忘れず、野球ができるのは、支えがあるってことを嘯み締めながらプレーしていきたいです。来年、少しでも成長した姿を見せられるよう頑張っていきたいです。ほんとにありがとうございました。



村上らむ (3年)

今年も去年に引き続き大阪に招待していただき、関西遠征を気仙沼高校と終えて、部員もですがマネージャーである私もたくさんのお話を学びました。1つ目は、北摂つばさ高校、春日丘高校、茨木高校、金光大阪高校といったように、去年に引き続き試合させていただいたことです。強豪校である4つの高校と貴重な時間をいただき、試合をすることができ、まだまだ私たちには足りないことがたくさんあることを知ることができ、また4つの高校と交流を通して、試合以外のことも学ぶいい時間になりました。2つ目は、ホームステイを通してたくさんの人と交流できたことです。この関西遠征でホームステイをすることで、今の私たちの現状を伝えることもでき、とても良い経験ができてたのでよかったです。また他の高校とも交流をすることができ、すごく貴重な体験をすることができたと思います。3つ目は、去年に引き続き登米高校野球部を大阪に招待していただいたことです。この5日間を過ごせたのは、たくさんの方々の協力や支援があったからこそ、関西遠征に行くこともできた皆さんの経験もできたと思います。他にもたくさんのお話を学ぶことができ、今回の関西遠征も貴重な体験は忘れられない時間となりました。そして、交流を通し気仙沼や登米の現状、震災のことなど、たくさんのお話を伝えることもできたと思います。今私たちができることは、震災のことをたくさんの方々に知ってもらうこともですが、震災が起こった後でも私たち野球部がみんな全力で楽しく野球をしているということをプレーで見せる良い機会でもあったと思います。私たちが今当たり前のように過ごし、野球をすることができるのも、皆さんの支えや支援があったからだだと思います。今回の試合を通して、たくさんの方々から私たちのプレーで色々なことを伝えることができたと思います。これからも『縁』を忘れず、これから先もずっと続いていったらいいなと思いました。そして、今回招待してくれた人や支援してくれた方々への『感謝』の気持ちも忘れず、これからも頑張っていきたいです。今回で2回目になる関西遠征は、去年以上に皆さんの良い経験をするところでき、そして改めてたくさんの方々に支えられ応援されていることが分かりました。今回学んだことはこれからの普段の生活や練習に生かしていきたいです。そして来年・再来年とこのような交流が続くことを願っています。私も皆さんの人たちにさせていただいたことができるようになりたいなと思います。



渡辺芙季 (2年)

この度は私達登米高校を大阪に招待していただき、誠にありがとうございました。今回の遠征を通して、自分達の欠点や練習不足などに気付かされました。どれも貴重な体験で、とても良い勉強になりました。他校のマネージャーさんや部員さんともお話をすることができ、とても楽しかったです。ホスト家族さんには忙しい中私を暖かく迎え入れていただき、快適に過ごすことが出来ました。また、朝早くからホスト家族さんの家から学校までの送迎もしていただき、本当に様々な人に支えられている関西遠征だと感じました。なかなかこんなに遠くまで来る事がないので、初大阪で、初遠征でしたがとても充実し、いい交流会になったと思います。これからもこの交流会が途絶えることが無く、ずっとずっと続いていったらいいなと思います。本当にありがとうございました。

がんばろう！つばさネットワーク収支計算書

がんばろう！つばさネットワーク
(単位 円)

2016年4月1日～2017年3月31日

科目	2015年度決算	備考
I 収入の部		
1 入会金・会費収入	0	
2 事業収入 合計 以下、内訳	1,829,000	20160715-19,20-24気仙沼参加費1,636,000円=高校生25,000円*63人+教員・社会人33,000円*2人+分割10,000円*2人は昨年度徴収し、繰り越し金の中に含む。 参加費665,000円 =高校生25,000円*20人+教員・社会人33,000円*5人(これ以外の参加費は前年度算入済み) 参加費939,000円 =高校生25,000円*33人+教員・社会人33,000円*3人+高校生残金15,000円 (これ以外の参加費は前年度算入済み)
1-7気仙沼第7回現地ボランティア 20160715-20	665,000	
1-8気仙沼第8回現地ボランティア 20160720-24	939,000	
2.被災地高校生大阪招待 20160325-27	-	
3.気仙沼現地ボランティア 20170714-18,20-24	225,000	参加費225,000円 =高校生15,000円*15人(藪内拓紀様、本田彩穂萌様、橋口天音様、山下美緒様、石崎ゆう様、草野さくら様、松倉由恵様、森ゆらな様、坂本寧々様、土手美々仁様、和田つぐみ様、前川七海様、宮里楓乃様、岡田理花様、荒木千尋様)
4.熊本地震、鳥取地震の被災地支援	-	
3 寄付金等収入 合計 以下、内訳	434,278	
1-7気仙沼第7回現地ボランティア 20160715-20	-	
1-8気仙沼第8回現地ボランティア 20160720-24	-	
2.被災地高校生大阪招待 20160325-27	244,278	増尾能宏様23,000円、大岡成樹様23,000円、茨木市駅前募金5/26(31,749円)、5/27(93,787円)、7/8(21,326円)、7/11(17,391円)、NPO自立支援センター江菅洋一様10,000円、淡様10,000円、春日丘高校14,025円
3.気仙沼現地ボランティア 20170714-18,20-24	190,000	支援金10,000円×19名(藪内拓紀様、友成知里様、田村朱芳様、本田彩穂萌様、橋口天音様、山下美緒様、岩根ななみ様、上原夏海様、石崎ゆう様、草野さくら様、松倉由恵様、森ゆらな様、坂本寧々様、土手美々仁様、和田つぐみ様、前川七海様、宮里楓乃様、岡田理花様、荒木千尋様)
4.熊本地震、鳥取地震の被災地支援	-	
4 補助金・助成金 以下、内訳	1,542,635	
1-7気仙沼第7回現地ボランティア 20160715-20	173,994	平成28年度三菱東京銀行ESDアシストプロジェクト助成金100,000円は前年度会計に算入
1-8気仙沼第8回現地ボランティア 20160720-24	668,641	国立青少年教育振興機構 子ども夢基金 助成金 No.1640018
2.被災地高校生大阪招待 20160325-27	700,000	国立青少年教育振興機構 子ども夢基金 助成金 No.1640019
3.気仙沼現地ボランティア 20170714-18,20-24	-	公益財団法人JR西日本あんしん社会財団 平成28年度活動助成金 No.16E014
4.熊本地震、鳥取地震の被災地支援	-	
5 義援金	612,855	
1-7気仙沼第7回現地ボランティア 20160715-20	96,000	義援金8,000円×6名(後藤鞠奈様、井本満里菜様、宇佐見千輝様、木村冬美様、川原ひゆ様、谷夏穂様)+義援金4,000円×9名(田嶋巳紗様、内田遥香様、油谷凜様、古志二千華様、松浦未佳様、大竹成実様、山本創己様、井野翔太様、藤原千尋様、)+義援金2,000円×6名(雑賀亜以子様、村山朝香様、安藝辰弥様、武内乃愛様、中村美遥様、土居聡子様)
1-8気仙沼第8回現地ボランティア 20160720-24	52,000	義援金8,000円×3名(朴サユ様、本田優子様、奥野映美様)+義援金4,000円×4名(金カス様、木村沙奈様、安原亜海砂様、河実久様)+義援金2,000円×6名(梶谷多恵様、川原萌花様、金ミンジ様、麻生希希様、松浦亮太様、秋田早紀様)
2.被災地高校生大阪招待 20160325-27	6,000	義援金4,000円×1名(岡田理花様)+義援金1,000円×2名(草野さくら様、松倉由恵様)
3.気仙沼現地ボランティア 20170714-18,20-24	-	
4.熊本地震、鳥取地震の被災地支援	458,855	
6 その他収入(含む予備費)	403	
	403	熊本地震 義援金 368,422円 内訳:阪急茨木市駅前募金4/25(93,850円)、4/26(187,665円)、4/27(5,000円)、4/28(1,772円)、4/26(駅前・春日丘15,776円)、4/26(春日丘校内)39,234円 立命館大学防災集会(25,125円) 鳥取地震 義援金 90,433円 内訳:阪急茨木市駅前募金11/9(30,096円)11/15(29,683円)11/17(30,654円)
当期収入合計(A)	4,419,171	利子 利子 (当期集めた義援金612,855円を含む)
II 支出の部		
1 事業費	5,359,319	
1-7気仙沼現地ボランティア0715-19 以下、内訳	1,491,498	
旅費・交通費	946,750	バス運行費 410,000円 、ドライバ宿泊費 27,600円 =5,400円×2名×2泊+アーリーチェックイン3,000円×1名×2日、ドライバ食費 21,000円 =1,500円×7回×2名、高速道路往復 77,100円 、バス回送代 3,030円 、高校生宿泊 336,000円 =(1泊×3,000円+1泊×5,000円)×42名、フェリー高校生 24,360円 =580円(往復)×42名、フェリー大人 5,180円 =740円(往復)×7名、下見往復航空チケット(大阪-仙台)29,800円、下見八瀬2泊泊まり12,000円=6,000円×1名×2泊、緊急タクシー 680円 鎌20丁代引き手数料 300円 海辺に森を作るための苗木 50,000円 =1,000円×50本、JR茨木駅設置の横断幕(第7.8回共用) 32,138円 、熱中症対策水(一人10本) 51,840円 =108円×24本×20箱、海辺に森を作る作業用鎌20丁= 8,188円 、カキ養殖移動用漁船操業5往復燃料費 7,000円 、横断幕補修用白色ガムテープ 108円 、募金用熱中症対策水(5月) 4,752円 、支援者への粗品 4,320円 =540円×8箱、募金用熱中症対策水(7月) 4,276円 、 高校生交流茶菓(一人100円)9,748円、 保険掛金 29,400円 =600円×49名 引率者指導謝金 90,000円 =3,000円×6名×5日、カキ養殖講師・実技指導謝金 20,000円 =10,000円×2名×1日、海辺に森を作る活動講師・指導謝金 20,000円 =10,000円×1名×1日+5,000円×2名×1日、陸前高田聞き取り講師謝金 3,000円 =3,000円×1名×1日、高校生交流指導謝金 15,000円 =5,000円×3名×1日 大人素泊まり 56,000円 =4,000円×7名×2泊 指導者食費 14,000円 =1,000円×6名×2泊、現地スタッフ弁当(7/16屋) 3,500円 =500円×7名、7/17屋食弁当49人分 23,178円 キャンセルによる返金 50,000円 =25,000円×2名、指導者素泊まり返金 48,000円 =4,000円×6名×2泊
通信運搬費	300	
消耗品費	162,622	
会議費	9,748	
保険費	29,400	
諸謝金	148,000	
負担金	56,000	
食糧費	40,678	
その他	98,000	
1-8気仙沼現地ボランティア0720-24 以下、内訳	2,669,804	
旅費・交通費	1,887,360	バス2台運行費 820,000円 、ドライバ宿泊費 61,680円 =7,710円×4名×2泊、ドライバ食費 42,000円 =1,500円×7回×4名、高速道路2台往復 145,540円 =72,770円×2台、バス回送代 4,720円 =2,360円×2台、高校生宿泊 759,000円 =八瀬(7/21,22)高校生宿泊3,000円×(33+36)人×1泊+ホテル(7/21,22)高校生宿泊8,000円×(36+33)人×1泊、フェリー高校生 40,020円 =69名×580円(往復)、フェリー大人 5,180円 =740円(往復)×7名、フェリー トラル対応 820円 =1名×410円×2回、荷物運搬タクシー 680円 、募金交通費補助 4,620円 =220円×21回、春日丘高校・柴島高校説明会駐輪場 100円 、会議用地下鉄回数券 3,000円 説明会資料送料 3,256円 =360円×6+140円×6回+92円×1回+82円×2回、海辺の森をつくる作業用鎌40丁代引き手数料 400円 海辺に森を作る苗木 100,000円 =1,000円×100本、熱中症対策水 88,128円 =108円*24本*20箱+108円*24本*14箱、携帯用横断幕 29,838円 、海辺に森を作る作業用鎌40丁 16,361円 、同高校切りばさみ2丁 6,868円 、研修用資材ウニ 15,000円 =150円×100個、カキ養殖漁船運航燃料7回 8,166円 、募金(5月)用熱中症対策水 9,504円 、駅前募金(7月)用熱中症対策水 8,553円 、支援者への粗品 6,480円 =540円×12個、現地スタッフ弁当 4,000円 =500円×8個、モバイルバッテリー 3,002円 、カードリーダー 1,058円 高校生交流茶菓 7,514円 、説明会会議費2回ドリンク5杯 1,819円 第8回気仙沼ボランティア保険45,600円=600円×76名 全体コーディネート 25,000円 =5,000円×1名×5日、引率指導謝金 60,000円 =3,000円×4名×5日、カキ、ウニ養殖講師・指導謝金 20,000円 =10,000円×2名×1日、海辺に森を作る活動講師・指導謝金 20,000円 =10,000円×1名×1日+5,000円×2名×1日、陸前高田聞き取り講師 6,000円 =3,000円×2名×1日、高校生交流指導謝金 15,000円 =5,000円×3名×1日 八瀬7/21大人素泊まり 20,000円 =4,000円×5名×1泊、プラザホテル7/21大人素泊まり 19,500円 =6500円×3名×1泊、八瀬7/22大人素泊まり 12,000円 =4,000円×3名×1泊、ホテル観洋7/22大人素泊まり 32,500円 =6500円×5名×1泊、 八瀬7/21大人食費 5,000円 =1000円×5名×1泊、プラザホテル7/21大人食事 4,500円 =1500円×3名×1泊、八瀬7/22大人食費 3,000円 =1,000円×3名×1泊、ホテル観洋7/22大人食費 7,500円 =1,500円×5名×1泊、7/22昼弁当78個 36,897円 大人素泊まり返金 40,000円 =4,000円×5名×2泊、キャンセルによる返金 100,000円 =25,000*3名+15,000円×1名+10,000円×1名
通信運搬費	3,656	
消耗品費	296,958	
会議費	9,333	
保険費	45,600	
諸謝金	146,000	
負担金	84,000	
食糧費	56,897	
その他	140,000	
2.被災地高校生大阪招待20160325-27	1,071,342	
旅費・交通費	744,360	折衝用地下鉄回数券6,000=3,000円×2、One World Festival荷物運搬駐車場200円、One World Festival荷物運搬タクシー1,000円、風呂へのバス代3,520円=440円*8、風呂へのバス代追加440円=440円*1、風呂へのバス代3,520円=440円*8、駐車場400円、バス運行費729,280円=運行費660,000円+高速料金69,280円 郵送料570円+プロバイダ3,024円+ホスト家族書類送付切手82円+野球関係者書類送付切手82円+野球関係者書類送付切手984円+野球関係者書類送付切手82円+ホスト家族資料送付切手256円+ユネスコ、ユネスコスクールへの資料送付切手8通2,212円+気仙沼・登米通知切手2通164円+代引き手数料3件972円+ホスト家族案内ハガキ11枚572円+チラシ送付送料8通2,397円+ハガキ切手差額4円=2円*2+運営細案送付切手10件1,459円+切手104円=52円*2+ホスト家族への粗品の送金手数料216円+関係者への宅急便872円+バス代金の送金手数料432円+JR西日本あんしん社会財団へのレターバック360円 ホスト家族募集チラシ7500枚 13,384円 +大阪招待ホスト家族第二次募集チラシ 14,840円 +役員名刺 2,946円 +チラシ14,000枚23,393円+ ポスター300枚 8,972円 +チラシ1000枚ポスター100枚追加印刷 10,822円 JR茨木駅横断幕29,333円 +自転車補修用むしゴム100円+送迎自転車修理タイヤ、チューブ3,240円 +自転車部品+工賃1,596円 + 自転車部品3+工賃4,788円 +パソコン周辺機器9,480円+ パソコン周辺機器Acrobat 18,764円 +スマホ充電アダプタ 108円 +パソコン周辺機器 686円 + 支援者への粗品 1,545円+支援者への粗品5,000円+コピー代金 50円+コピー150円=10*15枚+平田まつりボランティア熱中症対策水352円 +平田まつりボランティア熱中症対策水178円 +クリアフォルダ100枚907円 +ガムテープ108円 +駐輪場整備用結束バンドと透明クロス 1,397円+綿菓子用元禄箸5袋1,069円+インフルエンザ拡散防止マスク1,960円+ホスト家族会議用カキ入れ袋645円 +マドラートと紙カップ923円
通信運搬費	14,844	
印刷費	74,357	
消耗品費	82,379	
会議費	22,300	
諸謝金	22,000	
負担金	27,652	
食糧費	83,450	
3.気仙沼現地ボランティア 20140721-25	106,537	
旅費・交通費	87,200	バス運行予約金 87,200円 (43,600円*2台) 第7回、第8回気仙沼ボランティア募集チラシ8,000枚 15,185円 チラシ送付料3,720円+送金手数料432円
印刷費	15,185	
通信運搬費	4,152	
4.その他	20,138	
交通費	15,900	
消耗品	3,638	
保険料	600	
2 義援金	583,730	
	343,297	熊本地震 たんぽぽハウスに義援金 343,297円
20160502	100,000	20160718気仙沼高校に義援金100,000円
20160718	50,000	20160723気仙沼高校に義援金 50,000円
20160723	90,433	倉吉農業高校に 義援金90,433円
20161208	-	
3 管理費 以下、内訳	0	
4 予備費	0	
当期支出合計(B)	5,943,049	
当期収支差額(A)-(B)=(C)	▲1,523,878	
前期繰越収支差額(D)	3,749,670	以下の①②③を含む。①20160715-19,20-24の気仙沼ボランティア参加費1,636,000円、および②20160401以降、お渡しする義援金 138,014円、③平成28年度三菱東京銀行ESDアシストプロジェクト助成金100,000円を含む
次期繰越収支差額(C)+(D)	2,225,792	以下の①②③④を含む。①気仙沼現地ボランティア20170714-18,20-24参加費225,000円、②支援金190,000円、③気仙沼への義援金142,014円、④熊本への義援金25,125円